台風委員会ワークショップに参加して

企画部　宮瀬将之

1　はじめに

去る9月21日から27日の日程で、中華人民共和国の北京市で開催されたESCAP/WMO台風委員会主催のワークショップに出席し、また北京市郊外の砂防現場において、土石流対策施設を視察する機会を得ましたので、簡単ではありますが以下に報告します。

2　台風委員会ワークショップ

台風委員会のワークショップは、今回「Workshop on Implementation of the Hydrological Component of the New Regional Cooperation Programme Implementation Plan of the Committee」というタイトルで開催され、日本からは9名が参加しました。

台風委員会においては3つの部会があり、今回出席したのは水文部会（TC-WGH）のワークショップです。この会議の中において日本は、"Pilot project on the preraration of Inundation and Water-related Hazard Maps"と"Pilot project on the establishment on flash-flood warning system (including debris flow and landsiefes"（以下、土砂プロジェクト）の2つのプロジェクトについて主催国として活動しています。土砂プロジェクトについては、昨年（2002年）から取り組んでいるものであり、日本の他に、中国、マレーシア、タイ、ラオス、フィリピン、韓国、北朝鮮、ベトナムが参加し、合計9カ国で構成されています。

土砂プロジェクトとしては、今回のワークショップの中で日本側から、独立行政法人土木研究所の小山内上席研究員による「土砂災害警戒避難プロジェクトの目的と概要」、当センターの宮瀬による「日本における土砂災害と対策の概要」、菊井による「警戒避難基準雨量設定の方法」の3題を発表しました。その後、本プロジェクトに参加している日本を除く8ヶ国のうち、レポート発表であるフィリピン以外の国からプロジェクトの中間成果について報告がありました。各国の報告に対して、日本側より質問及びコメントをする形式で、今後の進め方

全体会議風景

菊井課長発表の様子

概略位置図

に向けたサジェスチョンを行いました。なお、各国から、日本における基準雨量設定の具体的な事例について情報提供して欲しい旨の要望がなされました。

今後の予定としては、本年（平成15年）12月にマレーシアにおける台風委員会総会（TC36）、また来年には韓国で開催されるワークショップなどの場を利用して各国のパイロットエリアでの問題点や実施にあたっての技術的な助言を行うことにしています。各国の温度差はありますが計画期間内（2005年）までに少しでも多くの国で警戒避難基準の設定並びに運用開始ができることを願うものです。

3　北京市砂防現場視察概要について

中国の砂防については、これまで四川省や雲南省などの災害について報道などで目にする機会が多かったため、そのような地域の方が、砂防としても盛んであろうと勝手に想像していました。しかし、今回、北京市郊外の現場を視察することにより、認識を新たにすることとなりました。

1）位置概要

今回視察した現場は、北京市密云（みつうん）県番字牌（ばんぶーぱい）村にある砂防えん堤で、北京市中央部から北東方向に車で約2時間ほどの場所にあります。北京市の東部を流れ、渤海に注ぐ“潮白河”の流域で、北京市の水瓶でもある密云ダムの上流域に位置します。

2）災害概要

資料の入手はできませんでしたが、案内をしていただいた北京市密云県人民政府の鄭氏の説明によると、土石流が1989年7月2日の深夜に発生し、集落を構成していた70戸程のうち、21戸が流失する災害でした。村長などの判断により事前に自主避難が行われていましたが、逃げ遅れたり家に留まった老人など3名が命を落としたそうです。この時の降雨は、日雨量で370mm程度だったとのことです。

3）施設概要

この災害に対して、北京市水土保持工作庁としては、土石流対策のモデル事業として施工することとし、中国科学院成都山地災害環境研究所に設計を依頼し1995年に工事着手、1996年に竣工したとのことです。砂防えん堤としては、練石積み工法（現地発生の石礫を積み上げてモルタルで固めた）によるスリットえん堤で、堤長：112m、堤高：18.5m、前法：0.1、後法：0.6、天端幅：1.5mということです。

4　おわりに

今回の台風委員会出席と北京市砂防現場視察は、私にとって非常に刺激的であり、普段の業務の中では経験できないことが経験できました。そしていろんな意味で冥かった眼を少し開かせてくれたのではないかと思っています。これらの経験を今後の仕事の中で少しでも活かしていけるよう、頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、JICA中国水利人材育成プロジェクトの栗城リーダーには、北京市の砂防現場視察の実現にご尽力いただきました上に同行していただきました。また江原専門家には北京滞在における注意事項等のアドバイスなどをしていただきました。本当にありがとうございました。ここに辞して感謝申し上げます。多謝、再見。

記念碑

砂防えん堤正面

砂防えん堤より上流を望む

砂防えん堤銘板